

福岡県福岡市 出張報告要旨

1. 訪問目的

福岡は、官民連携によりクリエイティブ産業を育成をしており、医療分野でも医療ツーリズムを官民で推進する動きがある。国家戦略としてクリエイティブ産業の育成、医療ツーリズムを推進するに当たり、先駆的な取組みにつき情報収集し、現場の意見、アイデア、課題などを収集する。

2. 現地で得られた意見・アイデア

(1) クリエイティブ産業

<海外マーケティング>

- 海外市場のマーケティング、貿易実務、進出した際の現地での支援などにおいて公的機関のサポートがあると有難い。
- 日本のファッション等に対する憧れなど、日本をリスペクトする波があるのに、国を挙げて支援する体制が整っていない

<知財の取組み強化>

- コピーされるために海外進出には慎重。知財保護の対策を強化して欲しい。

<人材育成>

- 福岡市ではインターンシップ事業を行っている。同事業は学生にも企業にも良い機会となっており、1ヶ月のインターン期間を経て就職につながるきっかけとなっている
- クリエイターが多いのは福岡の文化・気質に負うところが大きい。ゲーム、音楽、ファッション等の分野で才能が出てきている。クリエイティブな人材は持って生まれた才能・感性に依存する。才能・感性を持った人材が自己実現でき、集まる環境作りが必要。

<資金>

- 初期投資の資金確保が困難。クリエイティブ産業に対する資金的な支援があれば良い

(2) 医療ツーリズム

<ニーズ・強み>

- 病院において PET 機器や高額な癌治療機器などをフル活用したいというニーズが高い。また、中国の富裕層はこれまでシンガポールで検診を受けていたが、価格上昇に伴い、日本で受診する需要が高まっている。
- 日本の強みは、安心・安全の技術。またきめ細かいサービスの提供にある。PET 健診においても日本の強みを活かせる。医師の読映力が高い
- 福岡県では、医療ツーリズムに取り組むために来年度から調査を開始する。中国からはクルーズ船の寄港が増加。韓国とはビートル船で約 3 時間で移動可能。アクセスが良いのも医療ツーリズムの強みとなる。

<課題>

- 支払いリスク、訴訟リスク、商慣習や文化の違いなど様々な課題もある。リスクを軽減させるためには、当該国の医師との連携や、地域の病院の連携により、受け入れに関するマネジメントやリスク管理などのベストプラクティスを導入していく必要。
- 検査後に、入院となる場合、医師は対応できても看護師の人材がいない。
- 医療と観光の両面で知識がある仲介者がいれば、医療ツーリズムが促進されるのではないか。現状、医療ツーリズムをトータル・コーディネートできる仲介者は少ない。

3. 今後の検討事項

(1) クリエイティブ産業の育成

- 海外マーケティング支援
- 知的財産保護の強化
- 人材育成

(2) 医療ツーリズムの推進

- 観光などを組み合わせたパッケージ化
- コーディネーターの育成

以 上